

2023年2月吉日

千曲市市長 小川 修一 様
千曲市議会議長 小玉 新市 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 渡邊 大海
同 保存問題委員会 委員長 太田 安則
同 長野地域会 代表 林 隆



「旧更埴市庁舎」の保存活用に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴市におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに敬意を表しますとともに、当協会活動にご理解、ご協力いただいておりますことに心よりお礼申し上げます。

私ども（公社）日本建築家協会では、建築や工作物が地域の文化や景観を形成する上で重要な役割を担っていることを認識し、また優れた建築物等が永く使い続けられることによってこそ、地域文化や景観が継承され、更には地域の特色や個性が醸成されていくものと考え、これまで多くの建築物に関して保存活用の提言を行って参りました。

貴市における新庁舎建設に伴い、先般より「旧更埴市庁舎」についてその存続・廃止を含めた今後の利活用について検討されていることは認識しておりましたが、貴市の来年度事業において、本建築の解体方針が具体化されつつあることを知りました。これは文化庁の依頼により今年度実施されている「近現代建造物緊急重点調査事業」により、当協会として直近に認識されたものです。

旧更埴市庁舎は、ル・コルビュジェに師事した建築家・吉阪隆正主宰のU研究室創設メンバーである滝沢健児の設計によるもので、1966年に竣工したものです。滝沢は旧更埴市稲荷山出身であり、早稲田大学大学院修了後10年にわたり吉阪研究室の実務に関わり、「浦邸」「ヴィラ・クウクウ」「大学セミナーハウス」等の設計を担当しました。何れも DOCOMOMO JAPAN に選定されている日本近代建築の珠玉作品であり、滝沢が日本を代表する建築家のひとりであることが認識されます。その後U研究室分室を主宰し、ご承知のとおり更埴市庁舎等、出身地である更埴市や坂城町等の諸施設を設計しています。U研究室で培った個性的な造形による設計手法は更埴市庁舎でも存分に発揮されており、ポイドスラブを用いた構造や、吊り構造の階段、スキップフロアによる空間構成等が特徴として挙げられます。また、地域の特性を建築に表現しようとした意図（善光寺平盆地の軸線を意識した配置、町村合併の象徴である市章をアレンジした外壁意匠、外部側壁への麦の穂模様等）が窺えるなど、地域主義に根差した建築への取り組みを含め、当時の建築専門誌でも高く評価されています。滝沢は設計活動の傍ら早稲田大学講師を勤め、その後国土館大学工学部建築学科教授（後に名誉教授）に就任した教育者でもあり、建築家としてのみならず建築教育分野での功績は多大なものと認識されます。更に貴市（旧更埴市）においては更埴消防署、更埴体育館、更埴勤労青少年ホーム等、滝沢の設計による諸建築が実現されており、どれも近代建築として異彩を放ったユニークなものです。残念ながら体育館、青少年ホームは既に解体されており、更に旧庁舎が解体されることになれば、滝沢による、地方都市における近代建築精神の一象徴ともいえる建築が消滅することとなり、貴市として後世に禍根を残すことにもなりかねません。日本建築家協会としましては、何とか本建築が解体を免れて後世に繋ぐことにより、地域の建築文化を未来へと継承していかれることを強く要望する次第です。

なお、公益社団法人 日本建築家協会としましては、今後旧市庁舎が残される場合においては、その歴史的・文化的・景観的な価値を継承しつつ、更に地域住民にとって有益な施設として利活用されるための提案を含め、出来る限りの協力をさせて頂く所存であることを申し添えます。

敬具